

受賞名：優秀賞

タイトル：ぼくの町のおまわりさん

氏名： 小山 尊

小学校名：岩手県 奥州市立江刺ひがし小学校 四年

ぼくの学校の目の前には、駐在所がある。「けいさつ」って聞くと、気が引きしめるけれど、同じ学校の友達のお父さんということもあり、おまわりさんはぼくたちにとって小さなころから身近なそんざいだった。

ぼくは、毎日、集団登校で歩いて学校に行く。登校している時、おまわりさんはよくパトカーで見守りをしてくれた。パトカーから、元気な声で

「おはようございます。」

と、声をかけてくれた。学区をぐるぐる回り、ぼくたちの安全を守ってしてくれた。それだけではない。交通安全教室では、横だん歩道のわたり方を教えてもらった。正しい自転車の乗り方も教えてくれた。ぼくたちの学校は、交通安全に力を入れていることもあり、おまわりさんはいろいろな機会に学校に来てくれたし、いろいろな話をしてくれた。

昨年、社会でけいさつの仕事について学習した。登下校や地域の見守りをしていることはなんとなく知っていたけれど、勉強していくと、他にもいろいろな仕事をしていることがわかった。交通い反の取りしまり。交通事故の現場にかけつけて、交通整理。交代制で、二十四時間仕事をする。ぼくが見ていないところでも、おまわりさんはみんなのために、働いていることがわかった。

テレビでは、毎日のように交通事故や事件の話題を耳にする。でも、ぼくたちの町では、大きな交通事故や事件はほとんどない。教科書で学習したことと、ぼくたちの町の様子は少しちがっている。この地域のおまわりさんは、どんな仕事をしているのだろう。もっと知りたくなった。友達のお父さんに会った時、どんな仕事をしているのか聞いてみた。

「地域の人たちと一緒に活動しているんだよ。」

と、教えてくれた。みんなが安心してらせるように、交通事故や事件を防ぐための対話を事前に地域の人たちと一緒に考えていくようにしていると言っていた。町の安全は、おまわりさんが守るものだと思っていたけれど、町の人みんなで守っていくということか。

三月末、友達のお父さんはちがう地域に転きんしていった。パトカーからよびかけるあの声は聞こえなくなった。景色は変わらないのに、いつもとなんだがちがう感じがした。お母さんも先生も、何度も何度も

「車には、気をつけて。走るとあぶないよ。」

と言うけれど、正直、「めんどうだな。わかっているし。」と思うこともある。でも、ふと、あの時のおまわりさんの言葉が頭をよぎる。この町のために、ぼくにもできることはないかな。「このくらい、大丈夫」ではなく、自分でもできることを気をつけてみよう。ぼくが思ったように、一人一人が気をつけて生活したら、この町はずっと、事故の少ない、安心してらせる町のままだろう。今度会ったら、おまわりさんに伝えたい。

「次の町でもがんばってね。ぼくは、この町をこれからも安心してらせる町にするよ。」